

日本の海苔の状況

日本の海苔生産は、数量100億枚、金額1,000億円、平均価格10円以上の生産を続けてきたが、平成13年度をさかいに数量、金額とも減少。その上、生産者も極端に減り、産業としては長期低迷傾向にある。

しかし、世界的には、海苔の需要は底堅く、和食が世界遺産に認定されたのを契機に需要はますます増加すると考えられる。

1. 乾のり生産量と入札価格

| 海苔年度 | 生産数量 | 平均価格 |
|-------|------|--------|
| 平成26年 | 81億枚 | 10.48円 |
| 25年 | 71億枚 | 9.81円 |
| 24年 | 82億枚 | 8.58円 |

昨年価格が高騰した背景は、①25年度は今までにない不作で、漁期後半になり、色落ち等その状況がはっきりした頃から、価格が高騰。品質の割には異常に高かった。②前年の不作により、中・下級品中心に繰越在庫が減少したこと。③26年度漁期は漁期当初から天候が不順で秋芽生産、冷凍網生産とも、全体的に品質の割には価格が高く推移した。④特に、下級クラスの価格が著しく高く、従来は値段がつかなかった色のない海苔（黄色い海苔）にも積極的な買いが入った。まず数量を確保しようという思いが価格に反映された。

2. バラ干し海苔の生産量

1,200トン（乾海苔換算 4億枚） 1枚3gとして

3. 輸入量

約10億枚（IQ品目、輸入枠は約20億枚）

- ・韓国からの輸入が主体で、中国からの輸入量は少ない。この要因は中国食品の衛生問題等にある。

